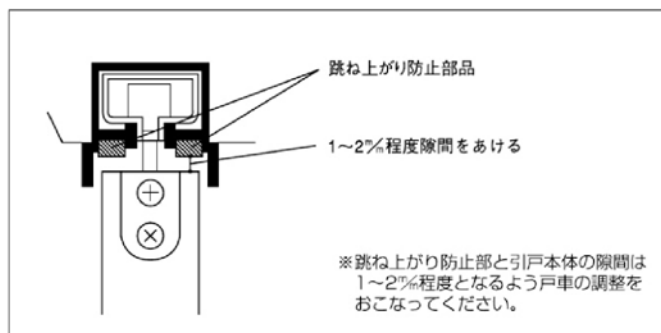
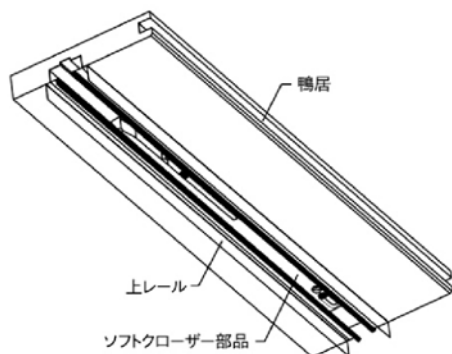


# 引き戸 (ソフトクローズ機構付)

## ソフトクローズ機構の確認と調整



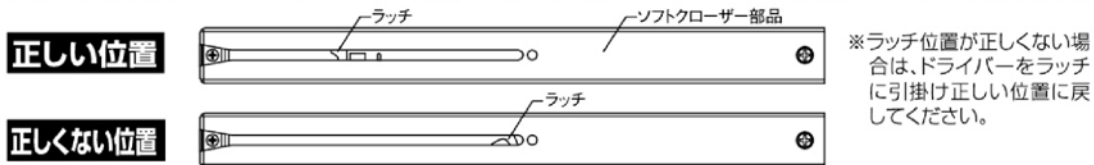
### ⚠ 注意

下記の点にご注意ください。

- ・ソフトクローザー機構が作動しない時は、まず下図の「ソフトクローズ機構が作動しない場合」をご確認ください。
- ・調整は必ず手回しドライバーにて調整を行ってください。 ・ソフトクローザー部品へは油を差さないでください。
- ・絶対に分解しないでください。

### ソフトクローズ機構が作動しない場合

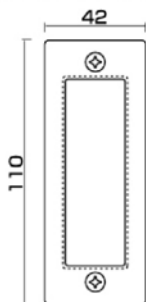
①上レール内に取り付けられているソフトクローザー部品のラッチ位置が正しい位置にあるか確認してください。(下図参照)



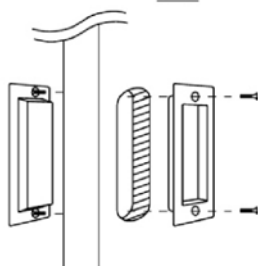
②鍵付けに問題がないか確認してください。傾き、ねじれなどがある場合は本体の鍵付け調整機構で調整してください。

## 引き手の取り付け

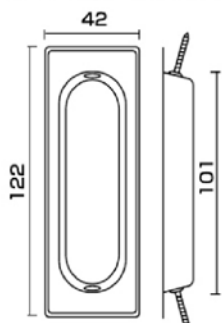
### 〈角タイプ引き手の場合〉



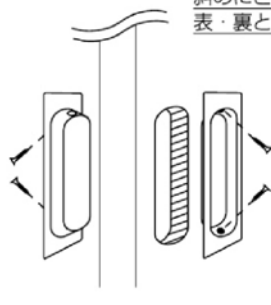
1セットを同梱のビスで水平にとめます。



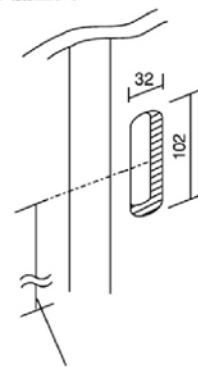
### 〈Rタイプ引き手の場合〉



片側ずつ同梱のビスで斜めにとめます。表・裏ともにビスでとめます。



### 引き手加工穴



引き手加工穴センター  
引き戸下端より95.7.5%

### お願い

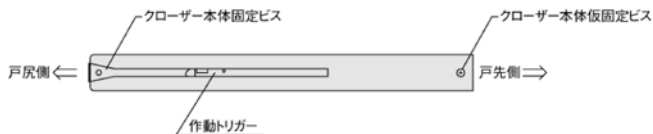
電動ドライバーによるビス止めは、引き手を破損するおそれがありますのでご注意ください。

調整枠 ソフトクローズ機構付

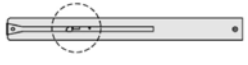
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

⑧ ソフトクローズ機構の調整方法

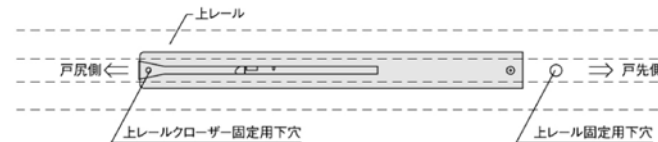
1. 引き戸クローザー本体について



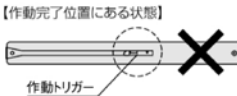
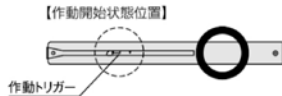

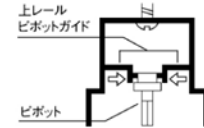
3. 引き戸クローズ機構の調整方法

現象	チェックポイント
減速感なく、引き戸が閉まる。 ※ブレーキの効き具合には限度がございます。速い速度で引き戸を閉めたり、取付状態や本体デザイン(重量)によって、ブレーキ感が弱く感じる場合がございます。	引き戸クローズ機構が作動していない。 (作動していませんと、引き戸を閉めたときに、枠から跳ね返ります。) 
	引き戸クローザー本体外観に潤滑油が塗布された形跡がないかを確認する。
	上記の項目を全て確認した上で、ブレーキがかかることなく引戸が閉まる。
引き戸が閉まりきらない。	引き戸クローザー本体を戸先側、戸尻側逆に取り付けていないか確認する。
	下レールにゴミがたまり付着し、戸車の滑りが悪くないか確認する。
	戸車にゴミが付着している。もしくは破損していないか確認する。
	下レールの端部が、敷居から浮いていないか確認する。
	引き戸が中方立てのモヘアと干渉していないか確認する。
	上レールのピボットガイド部分が内側方向へ変形していないか確認する。
	上記の項目を全て確認した上で、引き戸が閉まりきらない場合

2. 引き戸クローザー本体の取り付け位置



※引き戸クローザーは、上レールに仮固定された状態で出荷されており、出荷時の仮固定位置は、上レールのクローザー固定用下穴と引き戸クローザー本体のクローザー本体固定ビス穴と位置合わせした状態となっております。転居へ上レールを取り付けの際は、クローザーを動かさずそのまま固定してください。

対処方法	備考
引き戸本体を取外し、作動トリガーが下図のように作動完了位置にあった場合は、作動トリガーに細長い棒状のものを差し込み、作動トリガーを作動開始位置に移動させ、再度引き戸を取り付けて下さい。 【作動完了位置にある状態】  【作動開始状態位置】 	工場出荷状態の引き戸クローザー本体の作動トリガーは、作動開始状態位置にあります。
潤滑油等が塗布されている場合は、引き戸クローザー本体の交換が必要です。本体に潤滑油を塗布しないでください。	
もよりの弊社営業所、もしくは、フリーダイヤル0120-81-3331までご連絡ください。	
溝が付いている側が戸尻側となります。 	
清掃をお願いします。現場施行中のときには、レール内にゴミや木くずなどが入りこまないよう、養生をお願いします。	引き戸下部の戸車の回転に抵抗があると、引き戸が閉じにくくなります。
清掃をお願いします。また、破損している場合は、戸車(品番:ZY1640)の交換が必要です。もよりの弊社営業所までご連絡ください。	引き戸下部の戸車の回転に抵抗があると、引き戸が閉じにくくなります。
あて木をして、下レールを隙間なく叩き込んでください。	
引き戸に取り付けられている、ピボットと戸車の左右調整をしてください。	
『上レールビス』もしくは『クローザー本体仮固定ビス』の締め込み過ぎにより、上レールが内側へ寄ったため、『上レールピボットガイド部分』と『ピボット』が隙り合っている可能性があります。それぞれのビスを半回しずつ緩め、変形を緩和させてください。 	上レールピボットガイド部分とピボットには、隙間を設けております。この隙間がなくなると、ピボットを押し付けることになり、その抵抗によって、引き戸が閉じにくくなる場合がございます。
もよりの弊社営業所、もしくは、フリーダイヤル0120-81-3331までご連絡ください。	